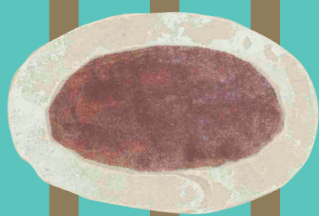
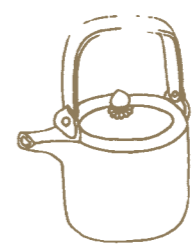


静岡文化芸術大学公開講座

近世日本の 医・薬・食の文化と その現代的復元

— 歴史学を観光に繋ぐ —



エッセイ
武士の健康タイム



【御干菓子御見本】(名古屋市蓬左文庫 / 部分)
竹裏亭「嘉定記」(東京都立図書館 / 部分)
楊州周延「千代田之御表 六月十六日嘉祥ノ図」(東京都立図書館 / 部分)

静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター

はじめに



現代に生きる私たちは、病や体の不調とどのように付き合っているのでしょうか。

第一には、細菌に対して直球的効果がある「魔法の弾丸」抗生剤をはじめとして、近代医学が生み出した薬に頼ることが多いかもしれません。一方で、私たちは、古代以来の医薬文化も受け継いでいます。病院で治療や投薬を受けるのみならず、神仏や呪いに頼ったり、季節や人生の節目の行事・儀礼を執り行ったり、日常のふるまいや食べ物に配慮するなどの養生的実践を行ったりしています。

近世日本においては、食物を薬と捉える見方があり、菓子や茶もまた、病除けや養生の文化との関連で考えることができます。本講座は、菓子と茶をテーマとして、近世日本における医学・薬学の歴史を身近に学び、体験していただけるように準備したものです。

本講座が開催されたのは7月、まもなく炎暑を迎える頃でした。旧暦6月16日(2023年では8月上旬)は、近世において、徳川幕府の重要行事、嘉定(嘉祥)の儀礼が執り行われていた日です。そして、この儀礼になくはならなかったものこそ、菓子でした。本講座では、この嘉定儀礼などにみられる近世の医学・薬学についての研究発表のほか、菓子職人によって“現代的に復元”された嘉定菓子、徳川家康の薬学的関心に基づき薬剤師が“再現”した薬草茶(薬膳茶)が披露されました。また、参加者の皆さんと一緒に、薬草茶作りも行われました。

観光の観点からみれば、和菓子も薬草茶も、先人に思いを馳せながら楽しむことができる歴史文化観光資源として、今後、注目しうものでしょう。本講座、そしてその記録である本書を通じて、多くの方に歴史研究を身近に感じていただくとともに、それが生みうる新たな観光資源の可能性もまた考えていただけましたら幸いです。

宮崎千穂

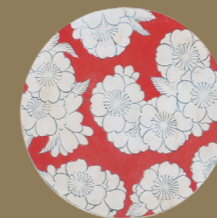


静岡文化芸術大学公開講座



近世日本の 医・薬・食の文化と その現代的復元

— 歴史学を観光に繋ぐ —



【主催】静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター
科学研究費補助金・基盤研究(B)(宮崎千穂:21H00500)

【後援】浜松市

「東アジア文化都市2023 静岡県」認証プログラム

プログラム

2023年7月9日(日)

第1部

13:30 ▶ 15:30

会場:大講義室(南176)

司会:廣川和花(専修大学)

13:30 (第1部)開会の辞

13:40~14:20 研究発表 「近世日本における薬としての食物——菓子と茶に注目して」

宮崎千穂(静岡文化芸術大学)

14:30~14:50 実践報告 「徳川幕府嘉定菓子と近世菓子の復元」

宮崎千穂(静岡文化芸術大学) 内田弘守(巖邑堂)

15:00~15:20 実践報告 「徳川家康の薬を薬膳茶で“再現”する」

秋山あかね(和薬・漢方の本草閣)

15:20~15:30 コメント

廣川和花(専修大学)

15:30 (第1部)閉会の辞

第2部

15:45 ▶ 17:00

会場:自由創造工房

15:45 (第2部)開会の辞

15:50~16:50 実演 「体質に合った薬膳茶を作ろう」

秋山あかね(和薬・漢方の本草閣) 坪松かおり(和薬・漢方の本草閣)

17:00 (第2部)閉会の辞

研究発表



「近世日本における薬としての食物——菓子と茶に注目して」 宮崎千穂

近世日本の菓子と茶は、さまざまな観点からとらえることができます。宮崎報告では、まず、菓子の広まりと茶の湯の流行、礼節・養生との関わりが確認された後、徳川幕府の嘉定(嘉祥)儀礼に着目して政(まつりごと)の観点から、そして、本草学(医学・薬学)の視点から近世の人びとの菓子への接し方が検討されました。近世においては、茶の湯という社交の場から菓子文化が隆盛を誇るようになり、素朴な菓子や華やかな菓子などさまざまな菓子が人びとにとって身近な存在になる中で、病除けや厄除けのために、統治者が政治の場で菓子を利用していったことや、本草家らが薬として菓子を解釈しようとしていたことを窺い知ることができました。

実践報告



「徳川幕府嘉定菓子と近世菓子の復元」 宮崎千穂 内田弘守

宮崎・内田報告で披露された徳川幕府の嘉定菓子は、歴史史料と現代的な思考、素材・技術により“現代的に復元”されたものです。菓子の復元にあたって参考とした史料は、竹裏亭『嘉定記』（東京都立図書館所蔵）及び小野清『徳川制度史料』（初輯（柳営行事）、1927年。国立国会図書館デジタルコレクション）です。『徳川制度史料』には大きさ・形状、材料と製法についての簡単な説明があるのみであるため、菓子銘と『嘉定記』にみえる絵図より当時の菓子を推測して製造しました。特に、熨斗揉（アワビ）と煮染麩については、現代人の感覚に合うように甘味的な菓子に仕上がっています。また、同様な考え方で、名古屋市蓬左文庫所蔵『御蒸菓子御見本』より「木芙蓉」を“現代的に復元”しました。

本企画では、徳川幕府嘉定菓子に関する史料の発掘・解釈を宮崎千穂が、史料に基づく徳川幕府嘉定菓子の“現代的復元”を内田弘守が担当しました。

実践報告



「徳川家康の薬を薬膳茶で“再現”する」

..... 秋山あかね

秋山報告では、徳川家康が愛用したとされる漢方薬「八味丸」（八味地黄丸）を、現代風に薬膳茶として“再現”したものが披露されました。八味丸を構成する生薬には抗加齢に効く地黄（ジオウ）、山茱萸（サンシュユ）、山薬（サンヤク）、水分代謝を良くする沢瀉（タクシャ）と茯苓（ブクリョウ）、血液をサラサラにする牡丹皮（ポタンピ）、体を温める桂皮（ケイヒ）と附子（ブシ）があります。このような生薬の薬効をヒントとして、15種の和漢素材（高麗人参、桑の葉、山茱萸、山芋、ニクジュヨウ、杜仲葉、三七人参、どくだみ、はとむぎ、はぶ茶、ほうじ茶、みかんの皮、かき葉、しそ葉、くこ葉）をブレンドした“家康茶”を作りました。丸薬をより体に優しい素材の茶にするという発想から、「八味丸」の薬効を体験的に想像することができました。

実演



「体質に合った薬膳茶を作ろう」

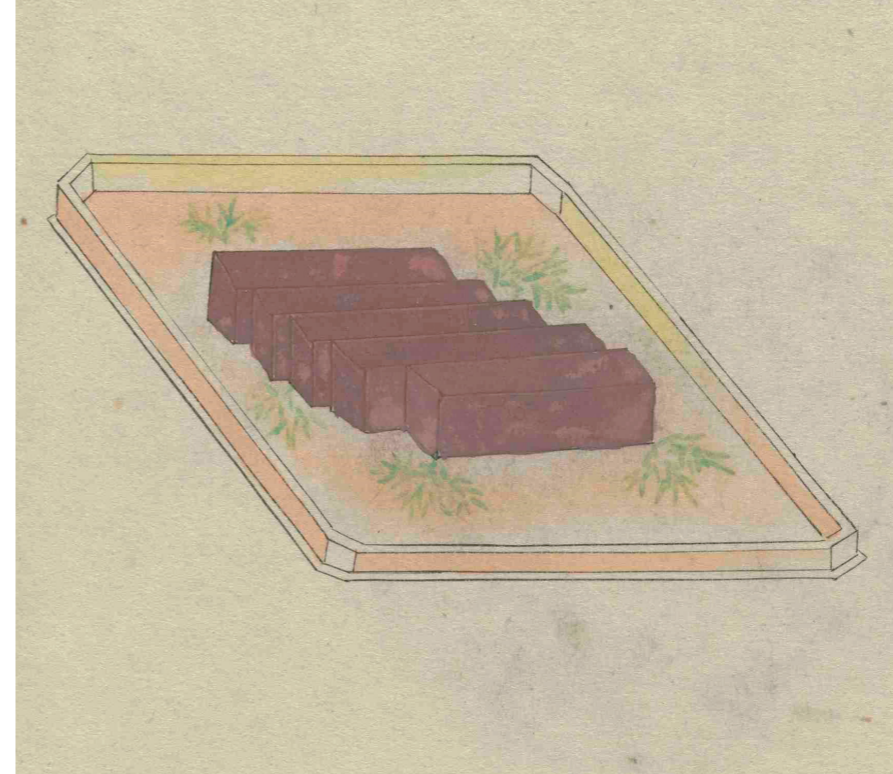
..... 秋山あかね 坪松かおり

秋山・坪松による漢方の基礎講義の後、参加者の皆さんが指導の下でそれぞれの体質に合った薬膳茶を和漢素材から作りました。内田弘守製造の「木芙蓉」も一緒にいただきました。





「千代田之御表 六月十六日嘉祥ノ図」(東京都立図書館蔵)



復元された羊羹 (内田弘守製造)



復元された嘉定菓子 (内田弘守製造)①



復元された嘉定菓子 (内田弘守製造)②



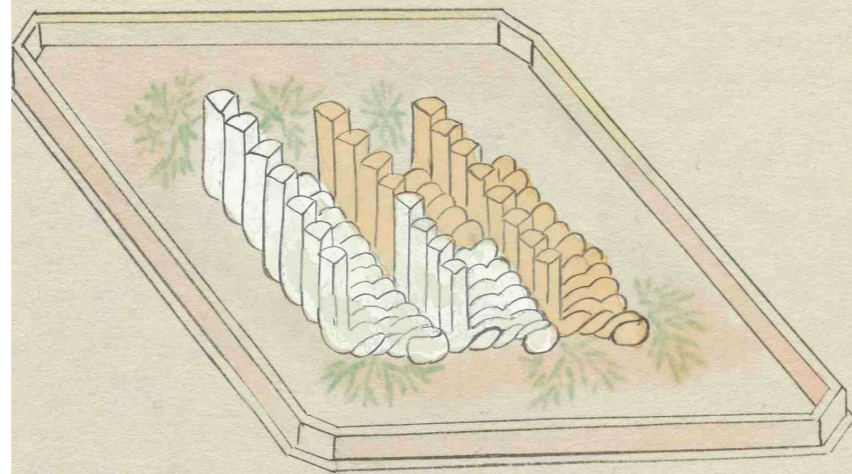
羊羹・大鶉焼 (『嘉定記』より/東京都立図書館)



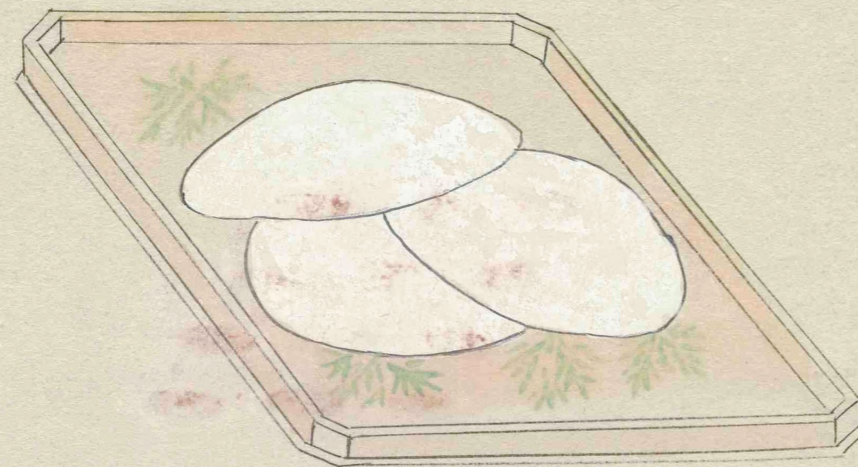
復元された大鶉焼 (内田弘守製造)



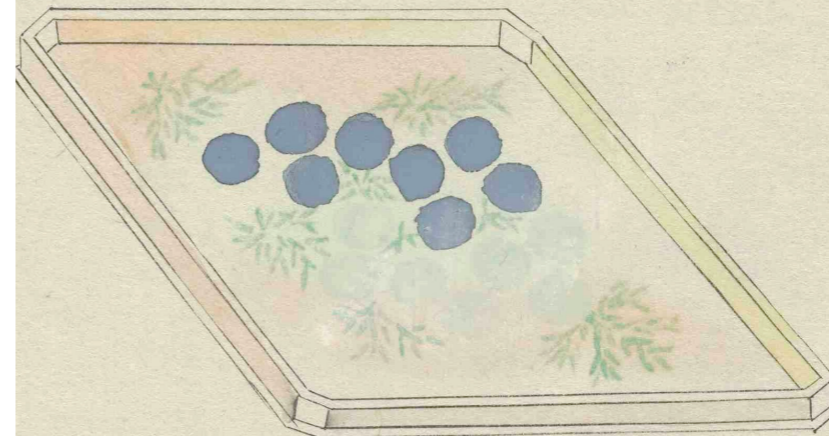
復元された寄水 (内田弘守製造)



復元された大饅頭 (内田弘守製造)



寄水・大饅頭 (『嘉定記』より/東京都立図書館)



金鈍・阿古屋 (『嘉定記』より/東京都立図書館)



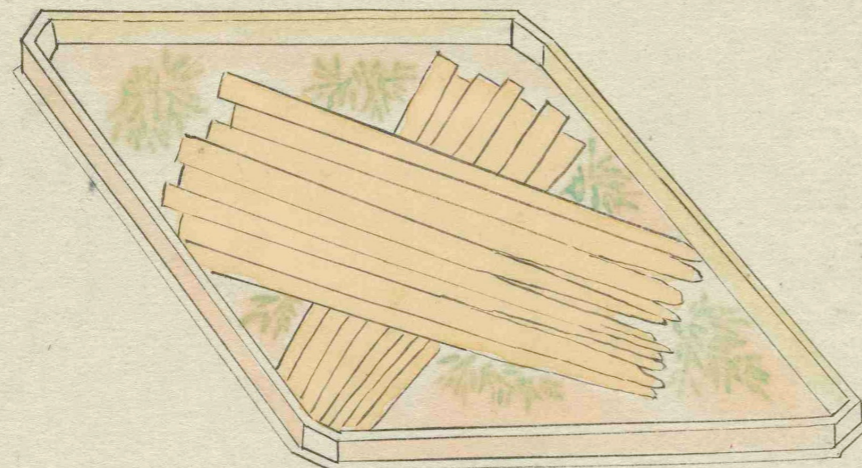
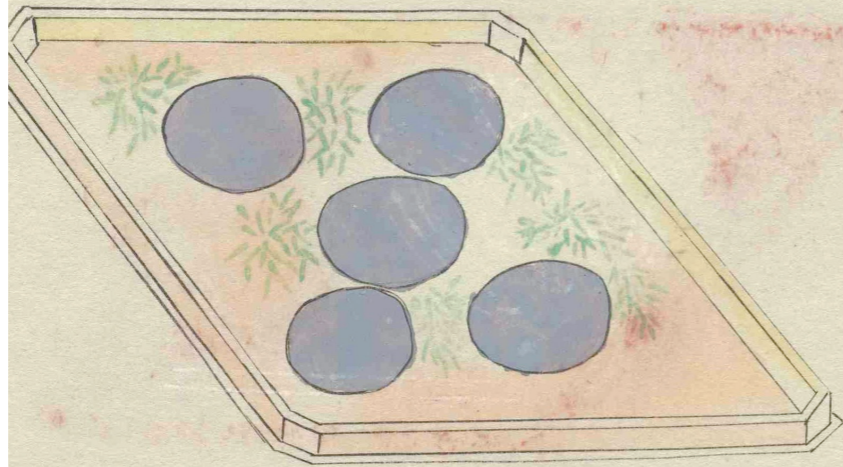
復元された金鈍 (内田弘守製造)



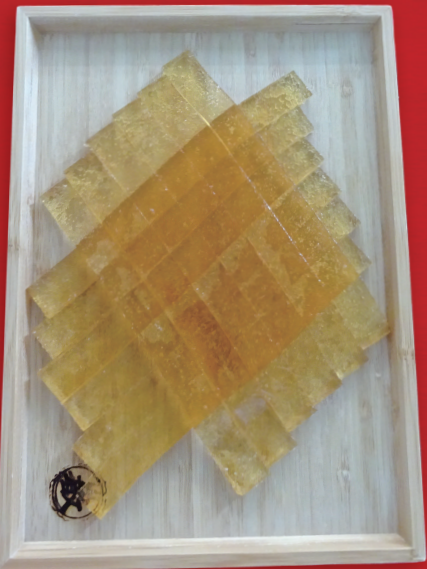
復元された阿古屋 (内田弘守製造)



復元された煮染麩 (内田弘守製造)



煮染麩・熨斗揉 (『嘉定記』より/東京都立図書館)



復元された熨斗揉 (内田弘守製造)

木芙蓉
米の粉製
入



木芙蓉 (『御蒸菓子御見本』より/名古屋市蓬左文庫)



復元された木芙蓉 (内田弘守製造)

近世には、砂糖が広まり、技巧を凝らした美しく甘い菓子が登場しました。“現代的に復元”された「木芙蓉」は、名古屋市蓬左文庫所蔵「御蒸菓子御見本」を参考としています。



[講演] 宮崎千穂

静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科准教授。博士(学術)。名古屋大学文学部史学科国史学専攻卒業、同大学大学院国際開発研究科博士課程修了。(独)日本学術振興会特別研究員PD、同RPD、名古屋大学国際機構特任助教等を経て、現職。医学・薬学史、異文化交流史を専門とし、歴史学と観光を繋ぐ文明観光学の構築を試みている。



[講演・菓子復元] 内田弘守

幕末期に創業した浜松和菓子老舗「巖邑堂」の五代目。屋号の巖邑は、初代が美濃国巖邑藩(現在の岐阜県恵那市岩村町)の藩士であったことに由来する。「味わうのは一時、はかないけれど、記憶に残る御菓子」に日々挑み、東京、タイ・バンコクにも店舗を構えて和菓子の世界を海外へと広げている。



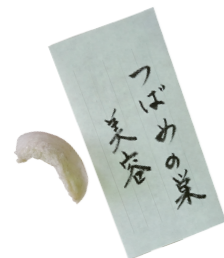
[講演・薬膳茶実演] 秋山あかね

薬剤師、本草研究家。家業である1830年創業の漢方専門相談薬局「和薬・漢方の本草閣」第九代目当主。「医学薬学だけに留まらず東洋の深淵を伝える」という志を持ち、講演会やセミナーでの講演を多数こなしている。国内外における契約農家無農薬栽培、生産者雇用、環境問題にも取り組みながら「本草の本物」を伝えている。



[司会] 廣川和花

専修大学文学部歴史学科教授。博士(文学)。大阪大学文学部、同大学大学院文学研究科博士後期課程で学ぶ。大阪大学総合学術博物館助教、同大学適塾センター准教授等を経て、現職。専門は、近代日本を中心とした医学・医療・疾病の歴史。



和薬・漢方の本草閣提供



● イベントちらし ●

静岡文化芸術大学公開講座

「近世日本の医・薬・食の文化とその現代的復元

—歴史学を観光に繋ぐ—」記録

[発行日] 2024年1月15日 第1版

2024年2月20日 第2版

[文] 宮崎千穂

[会場と菓子の写真] 兒玉美歌

(静岡文化芸術大学・文明観光学コース・宮崎ゼミ学生)

[デザイン] 中森桃子 佐野智規

[発行] 静岡文化芸術大学・文化芸術研究センター